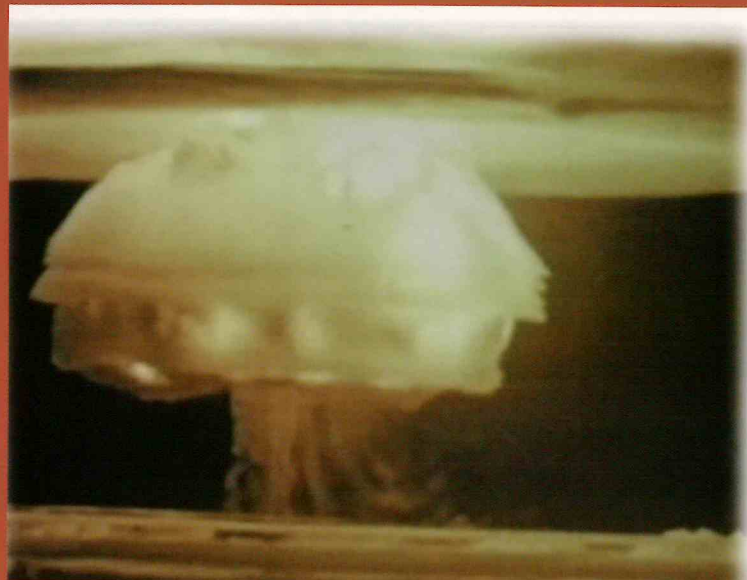


19年に渡る独自取材にもとづく、渾身のドキュメンタリー



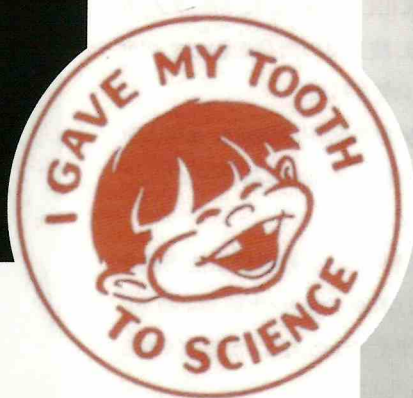
30人の証言、4000ページに及ぶ文書。
アメリカ・ネバダの核実験場から広がった
“見えない放射性降下物”
アメリカ大陸の放射能汚染の実態に迫る。

放射線を浴びた X 年後 III

Silent Fallout

サイレント・フォールアウト

乳歯が語る大陸汚染



1951年、アメリカ大陸ネバダ核実験場で大気圏内核実験が始まった。
計100回に及ぶ実験はアメリカ大陸を放射能汚染。それを実証しようとしたのは女性たちだった。
「子どもの命を守りたい」。彼女たちの思いと行動が国を動かした歴史的事実とともに、放射能汚染
に向き合う30人の証言と当時の文書から、いまなお潜む、“サイレント・フォールアウト、見えない
放射性降下物”の実態をあぶり出す。

核兵器のない平和な世界を目指して

上映日：2023年11月25日（土）13:30（開場13:00）

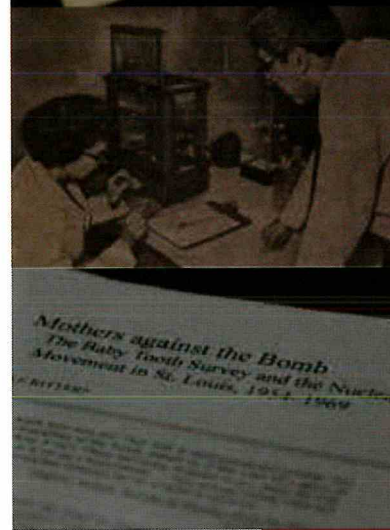
会場：藤沢市民会館 第1展示ホール

参加費：500円（当日700円）

連絡先：■島田（090-9239-0864）■見城（0466-36-8916）

主催：ピースリレー・ふじさわ





元ローカルテレビ局ディレクターでドキュメンタリー映画監督の伊東英朗によるシリーズ映画「放射線を浴びたX年後」第3弾。過去2作品では、アメリカによる太平洋核実験で被曝したマグロ漁師たちの被害を取り上げてきた。今回は、1950年代から60年代にかけて、アメリカ・ネバダ州で実施された核実験による、アメリカ大陸の放射能汚染を追った。本作は、子どもを被曝から守るために女性たちが始めた「乳歯調査」を中心に取材。4000ページを超える文書と、2022年夏に米国内の被曝者、研究者ら30人に行ったインタビューをもとに、今も続く放射能汚染の現実を伝える。[放映時間/96分]

【監督メッセージ】

太平洋核実験による被曝事件の取材を始めたのは、2004年。アメリカ原子力委員会の機密文書や日本政府の文書などを入手し、日本列島の放射能汚染、アメリカ大陸の放射能汚染を知りました。自分を含め、多くの人が知らない現実に打ちめられると共に、次々と亡くなっていく証言者を目の当たりにし、以降、「いま、伝えなくては」と、証言と資料に突き動かされるように、独自調査を続けてきました。

その間、日本では2011年、東日本大震災によって福島第一原発で事故が起こり、東日本一帯が強い放射能汚染に見舞われました。そして10年が経ち、世界を揺るがした大きな事故は風化しつつあります。また、アメリカ国内で「放射線を浴びたX年後」「放射線を浴びたX年後II」を上映した際、核兵器の開発過程でアメリカ大陸全域が放射能汚染していることを、アメリカの人たちがまったく知らないことに驚きました。

伝えなければいけない、伝え続けなければならない。深まる使命感を胸に、核実験に関わり被曝した元軍人を取材するため、2020年、イギリスを訪ねました。取材を重ねると、20歳前後の若者だった彼らの多くが亡くなっていった事実を知りました。

さらに2022年6月から8月、大陸汚染したアメリカを取材。60年前、核実験によるアメリカ大陸の放射能汚染を実証しようとしたのは、女性たちです。子どもの命を守りたい彼女たちの思いと行動が、ケネディ大統領を動かしました。この映画が、日本の未来を考える上でひとつの気づきになることを、そしてアメリカの人たちが事実を知るきっかけになることを、願っています。



伊東 英朗 HIDEAKI ITO

ドキュメンタリー映画監督 / テレビディレクター

1960年愛媛県生まれ。テレビ局ディレクターを経て、2021年に独立。2004年、太平洋核実験によって日本のマグロ漁師が被曝した事実に出会い、映像化。映画「放射線を浴びたX年後」「放射線を浴びたX年後II」を制作。芸術選奨文部科学大臣賞、日本民間放送連盟賞、ギャラクシー賞、日本記者クラブ賞特別賞など受賞多数。



<ナレーション> 加藤登紀子

【ご支援のお願い】

映画「サイレントフォールアウト」は、クラウドファンディングと文化庁の助成金で完成いたしました。国内はもとより、最終的な目的であるアメリカでの上映活動を展開するため、ぜひご支援をお願いいたします。

【問合せ】090-3842-2956(事務局・酒井)

【メール】xyears.info@gmail.com

【振込先】

郵便振替 01640-4-43617 伊東英朗
伊予銀行 松山北支店 普通 1993369
株式会社伊東英朗事務所 代表取締役 伊東英朗

※お振り込みいただいた場合、お名前しか表示されないため、お手数ですが、メールで住所・氏名・電話番号などをお知らせください。※財団化ができていないため、暫定的に伊東事務所が受け皿になっています



文化庁文化芸術振興費補助金
(映画創造活動支援事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会